

第2回新ホール早期整備プラン意見交換会 議事概要

<開催要領>

日 時：令和6年11月25日（月）10時00分～12時00分

場 所：徳島県庁 3階 特別会議室

出席委員：山中英生委員長、生駒元委員、佐野靖委員、檜千尋委員、吉本光宏委員、
吉森章夫委員

<会議次第>

1 開会

2 議事

（1）新ホール早期整備プラン（骨子案）について

（2）その他

3 閉会

<配付資料>

次第

配席図

資料1 新ホール早期整備プラン（骨子案）

<議事概要>

【事務局】

本日の意見交換会につきましては、概ね12時までを予定しております。それでは山中委員長、進行のほどよろしく願いいたします。

【山中委員長】

皆様、おはようございます。早速ですけど議事ということで、前回の骨子案から、少し修正されてますかね。吉本先生に来ていただいておりますので、全体としてもう一度説明いただいて、内容を検討したいと思いますので、よろしく願いいたします。

【事務局】

(資料1について説明)

【山中委員長】

前回言った内容が追加されています。どなたでも結構ですから、ご質問、ご意見ありましたらよろしく願いします。

前回から特に基本目標のところですね、14ページあたり、色々加えていただいていますけれども、もう少し、前回も出ていましたけど、先端的なケースということですか、何というか分かりませんが、表現方法がどんどん変わってきているということで、そういうものに対応できるということも、少し入ってもいいのかなという感じがしました。映像技術とか、ちょっとキーワードは良く分からないんですけども、なんかそういう説明もここに少しあってもいいかなと思いました。

あとは、4の基本目標のところとか、それから後ろの方で出てくる「人とつなぐ」ところとか。「優れた文化芸術を鑑賞する機会を提供する」というところで、伝統芸能で終わっちゃってるんですけども、先端的な芸術表現みたいなものに対応できるような方がいいのかなと。

④のにぎわいのところでは、こちらはホールがやることではないんですけども、やはりこういう文化芸術を楽しむ前の時間と後ろの時間、「余韻」という言葉を最近まちづくりで使うんですけども、「余韻」を楽しむという視点が出ています。そういったことを周辺に働きかけるような視点になるってところが、結構重要かなと思っていますので、まちづくりに対して、ホールがけしかけていくんですかね、みたいなところをちょっとうたっていただくと、周りでいろんなこと考えて、先ほど公園にパークPFIでレストランを作るって言っていただきましたけど、「まち」がやれば良いと思うんです、ホール自体がやるよりは。どんどん人たちが自主的に、みんなに楽しんでもらおうという視点で活動していただければいいかなと思ってまして、そこを少し、ホールの使命ではないんですけども、寄与できるような、そういう形を考えていただくと、「まち」の方も考えられるかなと思いました。最初はその辺ですけど、他に何かありますか。

【檜委員】

先ほど玄関の方でちょっと知り合いと話していて、やっぱり藍場浜反対っていう、その

声を受けながらここに参りました。その意見もやっぱり大事に心に留めながら会議に参加させていただいています。今の「にぎわい」っていうところでやっぱり、週末以外の利用ができるっていうこととか、全時間的に使われる年代の方たちによって変わってくると思うので、そういうことも含めて、例えば平日のモーニングコンサートだったらどういう人が来るとか、でも子供たちはそういうところには来られないし、その辺りを少し考えながら、深めていけるようになれば良いなど、それがにぎわいづくりに繋がるかなと思います。

また、この間も出ましたけど、雨に濡れないでホールに行けること。あわぎんホールをまだ10年使うのであれば、やっぱりあわぎんホールまで濡れないで、それでその中で例えばギャラリーを、通路として使うっていうか、そういうことも含めて人が行き来できれば、少しはにぎわいに繋がったり、ホールがその「まち」の中にあって、見えてくることがあるのかなと思います。

【佐野委員】

委員長からの先ほどのご意見、とても重要だと思っていて、ホールがなんか主役になってしまって、また周辺の地域が細々とどんどん衰退していくみたいなことにはならないように、今あるものをどう活用するかっていう視点も、それは新しく活用すればとても重要、いいことなんで、何かそういうふうなちょっと再生的なことを考えないと、夢物語ばかり言っていると、あまり実現性がないんじゃないかなっていうのが1点。

委員長が最初におっしゃったことですね、先端、新しい芸術みたいなことなんですけど、これなかなか難しく、先端芸術やったら客がすごくマニアックな人しか来ないみたいな、今までのコンサートに来てる人が来なくなっちゃう。伝統芸能こそデジタルを活用すべきであって、古いものと新しいものを組み合わせることによって、もうあれ古臭いものだと思っていたのが、見せ方ですね、とても新しいものになる。だから着物文化とかも見せ方によっては、日本舞踊やなんかとうまく組み合わせたり、映像を上手く発信すれば、それを英語でやるとかですね。僕、芸大の邦楽科の学生には全員英語必修にすべきだって、ずっと言っていたんですよ、伝統邦楽ほど英語しかない、外に打って出るしかないっていうね。そういうものを取り込むような、何かこう、新しいものと古いものを別々に考えるんじゃないで、こっちの側面は新しいものを使って、コンテンツそのものは古いものを活かすような、なんかそういう発想が重要なんじゃないかなと思っています。

【山中委員長】

多分その辺りの技術もどんどん進化していくので、備え付けるというよりは、重要度を高めるような方向で、セットしていくっていうことが多分重要だと思うんですね。特に映像・映写技術はどんどん進化しているし、そういうものが全部取り替えられていくような形で、作っていくということですかね。少なくとも、もう映像とのマッチングというのは、当たり前のように行われているような気がします。映像・映写の装置をどう使うか、あるいはカメラ類ですね、どうやって発信していくかという時に、多分やる人によって全然違ってくるんでしょうけれども、少なくともカメラ類が十分ある、あるいはメインカメラがちゃんとある、みたいなのはいるのかなと思っています。

【佐野委員】

もういっぱいユーチューバー来ますよ。

【山中委員長】

そうですね。さっきの連携のところでも、メディアとの連携みたいな議論も入っていて、もいいのかなと。それからマスメディアの意見ももちろんあるんですけども、いわゆるSNSとの連携みたいなものを、もう少しホールとしても戦略的に考えていくというのはあるのかなと思います。

【吉本委員】

前回欠席したので、ちょっと議論について行ってない部分があるかもしれませんが、1つ思ったのは、14ページ、15ページにある、施設使命のところですね。2つ目に「未来を担う人材を育てる」というところがあるんですけど、もう1つ、高齢者とか障がい者とか、県民だれもが文化芸術を通じて生きる力を醸成するとか、あるいは最近増えている、いわゆる「ウェルビーイング」。単に福祉ということではなく、WHOの定義だと「身体的、精神的にも健康な状態」と言われたりしますが、文化芸術をとおして生きがいを感じるとか。急速な少子高齢化を考えると、後ろの方の地域課題のところでも、医療と福祉という文言が出てきますけど、文化芸術を通じて、超高齢社会や認知症とよりよく生きていくとかですね、そういうのが今非常に大きなテーマになっていますので、書き方は難しいんですけど、例えば文化芸術を通じた県民の活力創出と「ウェルビーイング」の醸成とか、何か1つ項目を加えた方が良いかと。若い人を育てるのももちろん重要なんですけど、そういう動向も踏まえた方がいいんじゃないかっていうことを1つ思いました。

そうしますと5項目になっちゃうわけですけど、それで今3番目に「優れた文化芸術の鑑賞」があるんですけど、これは2番目にあげた方がいいんじゃないかなと。「鑑賞」というのは後ろの方に一覧があって、主催事業のところにあるわけですけど、貸館のところにもホール関係者との連携みたいな話がありますが、貸館の中でも単に施設を貸すだけじゃなくて、いわゆる提携公演っていう、施設の使用料を減免して連携するみたいな、いろんなパターン戦略があるんですね。そういうことをあわせて、やっぱり県民の皆さんには、この新しくできるホールでいろんな芸術を鑑賞、体験してもらうっていうのは、ホールを作る大きな目標だと思うので、①の文化創造の次には③の鑑賞があって、次に未来の人材育成ですね。それと私が追加したらどうかと申し上げた「ウェルビーイング」の話があって最後に、県都のにぎわいが来ると、5つのバランスがさらによくなるんじゃないかなっていうふうに思います。

それともう1つは18ページに、事業の概要が出ていて、5番目に「新ホール独自の特色を持つ事業」というのを記載されていて、これもぜひやってもらいたいと思うんですけども、県内全校生徒を対象とするっていうのは、実は兵庫県の芸術文化センターでは、全県中学校を対象に「わくわくオーケストラ教室」というのをやっていて、それから静岡県舞台芸術センターでも中高生に対する鑑賞教室をやっていて、年間3万人が鑑賞したりしています。要するに県立のホールっていうのは、さっきご説明がありましたように、その立地する周辺エリアだけじゃなくて、県内全域にどういうふうに文化的なサービスを

提供するかっていうのが大きな課題なので、ぜひ取り組んでいただきたい。ただ、これをやろうとすると、いろんなことをクリアしなきゃいけない。バスの送迎をどうするんだとかですね、例えば池田町あたりだと一日がかりの話になっちゃうと思いますし、それでできなくなった分の授業をどう補填するんだとか、いろんなことがあると思うんですけども、県立ホールの姿勢として、これらを明確にしてもらった方がいいと思いました。

【山中委員長】

「ウェルビーイング」ですね、「インクルーシブ」からもう一歩進んで、人々の幸せを創出するような、そういう方向でホールを考えていく。

【吉本委員】

障がいとか年齢とかもそういうのは関係なく、県民誰もがそういうことに参加できる、そういう姿勢があればいいかなと思いました。

【佐野委員】

吉本委員の話には大賛成で、僕なんか未来を担う人材発掘って、チェックしちゃったんだけど、若い人ばかり何かいっときゃいいということではなくて、私自身だって徳島県人ということでは新人なので。人材育成の中に若い人材があったんだけど、やっぱり④にあるように、つながって育てなきゃいけないし、これまであんまりそういうことに関わってない職業だった人たちも、定年後に新たな生きがいを見つけるかもしれないし。やっぱり①に創造発信があって、②に鑑賞があって、3番目、4番目にそういう、つなぎ手の育成とか若い世代、未来の人材をっていうことがあって、にぎわいが来ると収まりがいい。おっしゃられるようなこと、全然気づかなかったんですけど、言われてみればそうだなと、なるほどと思いました。

【吉本委員】

若い世代だけでなく、全世代で支えていく。

【佐野委員】

新たなキャリアを作るっていう。

【生駒委員】

ジュニアオーケストラも実は昨日、演奏会だったんですけど、ホールでないので大変やなという話はいっぱい出ていました。今お話あったように、それこそ若い子を育てていくというのがメインなんですけど、コンサートの形というか、普段の練習のときも、全国でも少し増えてきているんですけど、シニアオケと一緒に活動する。そういうシニアオケを作ろうという話も、まだできてないんですけど作って、一緒にそういう活動も含めてやったらどうかと、これから具体化させていきたいなと思っているんですけども、今言われたようなことは確かに、必要だと思っています。

それともうひとつ、自分たちだけでできないところで、ホールとか県とかから手助けし

ていただいてやっていくという意味で、今ジュニアオケが中心になって、市内のオーケストラがある学校、徳島中学校オーケストラ部、城東高校オーケストラ部、市立高校オーケストラ部、子供たちの数が減ってきているので、大きな曲がなかなかできづらいと、オーケストラ自体の体験が中途半端になってしまっていると。それをお手伝いして一緒に合同で、オーケストラってこんな音が出るよというのを、ちょっとやりかけて、今年やったんが10年目になります、今年11回目のコンサートをやりました。それは徳島市に声をかけたものなんで、徳島市主催で今やっています。だけど本当は県民ホールとか、そういうのができれば、そういったところが中心になって、今は市内の子供だけでなく、もっと広くということで一般公募の子供たちも参加しておりますので、郡部の方たちも参加しておりますけど、そういったことがもっと具体的にできていいんじゃないかなと。

そして、いろんな活動、使命とかの中で出てくるところで、やっぱり継続性がなかったら、繋がっていかない。何をやるにしてもやっぱり継続するというふうなことが必要と思います。1つ、どうしても検証してほしいというのが、記念オーケストラの問題、触れたくないかもしれませんが、記念オーケストラはすごくいい面もあったし、いろんな問題点もあって、あれを一度ちゃんと検証して、こんなすばらしいこともありましたよ、こういうアマチュアではできないような企画もたくさんありましたと。そういうのをちゃんと検証して、なぜ駄目だったかって、やっぱり地域に根づいていなかった。地域に根づく1つのことをするイベントとして、簡単にプロの人を呼んできてやればいい、って言うんですけど、やっぱり何も残っていかなかったと。それをしっかり残るように、継続性を持って地域からずっと育てていって、それを発信していくというような取組を、これからのホールとしてもやっていただけたらありがたい、今までよかった面もいろいろあると思うんですね。

それから、せっかく今まで2回、国民文化祭をやってきているので、その時にいろんな取組、普段できないような取組をたくさんやってきましたよね。そういうのを、そこまでのスケールでなくても、もう本当にオーケストラだけ考えても、オーケストラと合唱団と邦楽と阿波踊りも含めた曲と一緒に演奏したりとか、そういうこともやっていましたけど、そういう取組、芸術祭的なことを、来年でなくても何かできるような方法があれば。それにしてもやっぱり時間があるわけで、すぐにやりますよというのができない。今、県の音楽祭みたいなものもあるんですけど、決まるのがいつも4月以降なんですよ、出場出演できますかとかいうのが。それぞれの団としては、もう1年前から次の活動の計画ができていますので、参加したくても参加できないこともあります。そんな意味で、プロであればひょっとしたらいけるんだけど、アマチュアの団体っていうのはそうはいかないんで、前の年度から、ちゃんとスケジュールが決められる状態の計画でないと、実際にはこういう企画っていうのは難しい、その辺を考えて欲しいなど。演奏会とかのスケジュールは、みんな1年前に決まっているので、もう無理な状態なので、そういうのをちょっと考えていただけたらもっともっとこう、出場できる団体とかも増えて盛り上がるんじゃないかなと思います。

【吉森委員】

例えば、学校関係はね、いくら紹介したって継続性というのは大変だから、みんな断る

んですよね。郷土文化会館で、今まで何回かあるんですが、生徒に案内したって、誰も応募してこない、引率が大変だから。こういうのは教育委員会で丸ごとやってくれないと、とてもできない。例えば、東京でいたときに、歌舞伎座に必ず年に一回ね、教育委員会が主催して、今年は3年生、今年は2年生を全部招待する、午前中の一幕を見せる。そういうことで、歌舞伎ってこういうものかって、そこに行って初めて分かるわけですし、それをずっと子どもは覚えているんですよ。何年か前にあそこで歌舞伎を見たって、そういうことが大事なんですよ。

邦楽器なんかが見えたって、肝心の演奏しているところを見たことがないと、ただ、これ三味線か、これ尺八かぐらいで終わってしまう。だから、やっぱり若者育てるんだったら教育委員会が主催して、例えばそのホールとタイアップしてやるとか、そうやらないとね、意味がないですよ。私なんかでも、歌舞伎座で見せてくれて、十分勉強になりましたよ、生徒以上に。

【山中委員長】

スケジュールの問題も同じようなものなんですよ。学校行事って前年度に決まってしまうから。前年度に日程が確定していて、しかも予算も決まれば、来年度やるからちゃんと説明してくださいとお願いできるんですけど、最初のスタートはなかなかそうならないので、結局4月にならないと先生方と話し合えない。どこでもそうですけど、4月からはもうびっちり予定が入っていて、1日空けるなんてことはできないということになっちゃっていますから。

【佐野委員】

あと10年前、20年前とは全然違い、学校は忙しい。大学もそうですけど、授業時数確保に縛られているわけです。だから、学校の中の行事なども教科の授業時数確保のために削られる傾向が強いですね。

【山中委員長】

だから、ちゃんとした授業カリキュラムの一環として、コンサートの日程を組めば時間割りを換えられるんですけど、そんないきなイベントとして入れられたら、別の話になってしまう。

【佐野委員】

それで、大分前からアウトリーチで、こっちが行くしかないだろうと。こっちが行くんであれば1コマぐらい、それでも結構大変なんです、全校児童や生徒を集めるのは。

【山中委員長】

だから恒例行事みたいなもので、前もってちゃんと日を当ててってことでやってくれると思いますから。ちゃんと日を決めて、恒例化にするまでが大変だと思うんですけどね。

【生駒委員】

藍住町が、総合文化ホールができてから、N響のメンバーで室内楽の演奏会を毎年やっているのですが、それは学年であったりとか全部、町内の小学校、中学校、子供たちをホールに呼ぶか、学校でのコンサートを毎年やっていますね。これはもう、1年前から決定的なことで、だから何かそういう行事的にちゃんと決まっていれば、学校も対応できるのですが、今おっしゃったように4月からとか急に言われてもって話になってくるので。

【吉森委員】

N響の予定はかなり前から決まっているから。

【佐野委員】

あとやっぱり距離感ですね。藍住町なら行けるけど、藍場浜にもっと遠い地域から来れるかってなると、難しいですね。

【山中委員長】

その辺は、スタートのところが大切なので、やろうということであれば、さっき言ったようなところを書く。あるいは徐々にやっていくってということもあるんですけど。

【吉本委員】

ページで言うと18ページなんですけども、一般的な貸館事業とあって、まず地域の文化団体の方々にホールを使っていただいて、いろんなことをやっていただくということがあると思うんですけど、単に貸し出すだけじゃなくて、舞台技術のサポートとか、より良い公演にするためにいろんな相談に乗るとか、そういうことを丁寧にする必要があると思うんですね。新しいホールは、舞台設備の機構や証明、音響は相当高度化しますので、それを操作するにも高い技術が求められる。市民の方々が借りて簡単に操作できない、必ず舞台の専門スタッフが関わらないと危険ですので、そういうことを書いた方がいいんじゃないかなと。

それと、その下にある興行関係者のところですけども、ここは、さっき申し上げましたけど提携とか、興行関係者やプロモーターさんがここで借りてやりたいと思えるような、インセンティブの仕組みを整えることによって、結果的に主催事業だけじゃなくて、貸館のラインナップが充実することで、県民の皆さんも多様な公演を鑑賞できるというようなことを目指すべきだと思います。貸館事業は非常に重要で、そうした仕組みを今どこまで書き込むべきかというのはあると思うんですけど、単に施設を貸し出すってことだけじゃない、県内文化団体に対するサービス、それからプロモーターさんが積極的に借りてくれるような仕組みづくりとか、そういったことに少し踏み込むといいかなと思いました。

【事務局】

生駒委員からは、行政の単年度予算、1年ごとに予算が決まって、それからでない事業展開できないと。これもホールができて、管理者が入って、県行政等の長期視点で文化的な戦略を持ったら、変わってくる可能性もあります。そういう意味でも、ハード・ソフト

ともに、しっかり機能を発揮できるホール整備が必要であると、ご意見いただきながら感じました。記念オケ事業につきましても、あえて触れますけれども、私も直接携わったわけではないのですが、事業のサポートを職員としておりました。この事業の中で最も印象的だった瞬間がありまして、たまに課でも話すんですけど、平成21年か22年ぐらいのとき、ジュニアオケをスキルアップしたときの本番で、むらさきホールで演奏したフィンランディア、私はあれを3階客席ぐらいから見てまして、本当に鳥肌が立ちました。子供たちが練習してきて、そこで本番をやって、やる気がすご過ぎてスピードアップしたことも覚えており、やはりああいう取組は継続していく必要があるし、そのためにも取組の効果を検証して、しっかり評価していくことが継続にも繋がるし、予算にも繋がると思います。そのあたり、しっかりと検証していくということも管理運営の部分に入れさせていただいているところです。

また、吉森委員から、なかなか子どもを呼ぶのも大変だ、そのためにも継続していかなくてはというお言葉もありました。吉本委員からも実際に成功してる事例も他県であるとのことで、事業になるかどうかは別として、毎年全員呼ぶというよりは、例えば県内の小学生は卒業するまでに1回はここで舞台を見るというように、ちゃんと機会を提供するなど、柔軟かつ継続してやっていくということが大事なのかなと感じたところです。

【佐野委員】

長野県伊那市の高遠町では、毎年必ず小学校5年生が、記念音楽祭で発表するといった取組もあります。

それから、学校との連携はやり方いろいろあると思うんですけど、今、「総合的な学習の時間」、高校だと「総合的な探究の時間」っていうのが、連携できる可能性があると思うんです。熊本市が、熊本市立必由館高校というところと今すごく連携していて、それこそ政令指定都市ですから熊本は、そこの課長クラスが高校に行って、こんな課題が熊本市にあるんだけどって話をする。それを受けて高校生が、自分たちなりの課題解決を探究し、年度末にそうした成果を公開で発表する。例えば、ホールに興味があるような高校の子たちが何かこういう検討委員会的なもの、新しいホールで何をすべきかみたいな調査をし、探究の成果を発表するとかですね。そういうなんかちっちゃな種をまいていくと、それが結構広がっていく。こういう、自治体とホールを介した総合的な、しかも探究の発表会を、3月でやりますとかっていうことであれば、結構な学校で手を挙げるんじゃないかなと。少人数だと思いますが、1つの学校で5人でも10人でもグループ学習で。それだったら、ちょっと遠距離の地域の子たちだって、その時は来れるんじゃないかなと思います。

【山中委員長】

何校か、そういうことに興味がある先生がいらっしゃったらね。そうすると、継続的に学生さんがたくさん関わってくれるような仕組みができるということで。お忙しい中ですが、業務としてやっていただければ。教育との連携ですね。

【吉森委員】

合唱コンクールの全国大会をやっていて、先週の土日は、郡山で小学校のをやったんで

すよ。徳島は千松小学校が出てるけど、もう生徒が感動をするってね、そういうところでやったら。だけど料金が高いから飛行機で行けない、新幹線とバス使ってる。大体、全国大会はバスで行くんですよ、先生が楽なんですよ、運んでくれたら。電車に乗るとか言ったら、いちいち点検して、5人に1人ぐらいは先生がついてないと。だから、バスが横着けできなければ、全国大会は絶対できないんですよ。松山で全国大会があったんですよ、大学一般のね。やっぱりもういっぱい駐車があるね、大体3000人入るからホールに。だから、そのバスの流れっていうか、あの場所でどこにバスを並べるのか、私は一番の問題だと思う。四国支部が一番県の数が少ないから、4年に1回、回ってくる。徳島でできないから、愛媛と香川にお願いしますと。ホールができたら、あと全部徳島でやりますからって言って、そう言って頼まないといけないですよ。四国大会ができないから隣の県にお願いして、手伝いに行けるかと言ったら手伝いに行けないんですよ、丸投げなんですよ。藍場浜だったらバスが止められない、とんでもないですよ、四国だったらみんなバスで来ますよ、降りるところがないのが一番の問題だと思います。

【山中委員長】

アクセスに大型バスが何台か来ることを想定した方がいいですよ。

【吉森委員】

障がい者の方だってバスだと思いますよ。バスは移動するのに一番安全だから。

【山中委員長】

大型バスの乗降、駐車施設ですよ、それが重要ですよ、ありがとうございます。

【吉森委員】

この間の新聞で、澤上さんが300億円で10年後に徳島にオペラハウスを作ると。徳島は隙間があるから、オペラハウスを10年後に本当に作りますよ、早く作らないと。

【吉本委員】

施設のところで、26ページに文化創造エリアというのがあって、多目的スタジオと活動室4室以上ってのがあって、それらは一番利用率が高い、幅広い利用ができる施設だと思うんですが、多目的スタジオの規模はどの程度を想定しているんですか。

【事務局】

事前に作成したモデルプランでは、300㎡程度といったところを想定して作らせていただきました。部屋については平土間空間といったところで、基本的にはフラットな状態で、公演の形とかミニ公演をやるときに、例えば仮設舞台を組んだりとか、上から照明を吊して照明を当てるとか、そういった部屋になったらいいなというふうに考えております。

【吉本委員】

300㎡だと仮設舞台を組んで客席は何席ぐらい入りますか。

【事務局】

やり方次第なんですけれども、他県の参考事例も参考にすると、最大で200席程度、可能ではないかと考えております。

【山中委員長】

この辺り、あわぎんホールとの連携の話が出てくるんですけど、ここはどういうふうに考えているのか、私もちょっと気になったんですけども、例えばこの30ページの図の中で、あわぎんホールとの連携みたいなものも書き込まれるのですか。

【事務局】

今の案については、新ホールだけの配置イメージで図を書いておりますので、あわぎんホールとの関係が若干見えづらいのかなと思います。

【山中委員長】

利用者やスタッフの動線を確保するのであれば、施設整備において重要な点ですので、明示しておくべきじゃないかなと思います。先ほど、濡れずにホール同士を行き来できるようにしてほしいとか、利用者とかスタッフの動線とかも当然変わってきますし、どう繋ぐべきかっていうのを明示しとかないといけないような気がするんですが。

【事務局】

あわぎんホールとは、ソフト面・ハード面での連携、色々ありますが、建物としての動線の確保であるとか、どう繋いでいくかということについては、今お示ししている形は我々のモデルプランであります。最終的に形になってくるのは、今後の設計段階で、それを見据えながら。

【山中委員長】

アイデアはいろんなところから出ると思うんですが、こういう動線は作って欲しいという視点は入れておかれた方が。特にあわぎんホール側の繋ぎは難しいと思うので、あわぎんホールの施設がどういう形であって、そこにどういう形で繋ぐのか、あった方がいいと思います。

【事務局】

例えば23ページの施設整備計画(3)のところに、あわぎんホール敷地の活用という形で、具体的に搬入搬出ルートのお示ししています。また、人の動き方等についても、委員長おっしゃっていただいたような形で。

【山中委員長】

搬入搬出ルートについては書かれているんですけど、利用者と主催者の動きというのが見えないので。

それと、あわぎんホールとの関係でいうと、運営管理ですね。一応、ここにはあわぎん

ホールの管理運営は出てないんですが、本来的には多分、指定管理なんかでやるんだとすると、同じ運営者が管理していくってことが、多分、利用者としては絶対使い勝手がいいと思うんですね。最近そういう包括管理みたいな契約をするってのは出てますので、そこを少し包括管理を目指すみたいなのをですね、書いたほうがいいんじゃないかなと思います。指定管理の期間がちょっとずれてるのを調整するとか、そういうこともやられています。同時に、それをまた合体して作るっていうのは有り得ますし、包括的に一体管理するっていうところも目指すと書かれてもいいのかなと思いました。

【事務局】

あわぎんホールとの関連については、委員長おっしゃっていただいたように、考えていく必要があります。この度の大ホールについて、これまで県内になかった機能、特に興行面で蓄積のない部分もございますので、動かしていくにあたっての準備期間ですとか、最終的なホールの使命、また事業展開を考えながら、一番効果のあるやり方はどういう形か、それには効率やコストのことも絡んできますが、総合的に考えさせていただきたい。

【山中委員長】

どういう運営スタイルにするかはあるんですけども、一体運営の検討ぐらいは書いてもいいのかなと思いました。

【吉本委員】

21ページの収入のところなんですけれども、最初に収入においては、こういったものを想定しますとあって、指定管理料が一番後ろになっていることに違和感があります。県のプランとして出すのであれば、県が施設の維持管理・人件費、それから事業費などの必要な経費については指定管理料としてしっかり確保しますというのがまずあって、その上で経営努力で事業収入をちゃんと確保するし、外部資金の調達をしっかりとやりますと。県のプランとして策定するのであれば、まず基本的な維持管理にかかる費用はしっかり見ます、ということを書いた方がいいんじゃないかと思いました。指定管理料も収入ではあるんですけども、もともと文化施設を作った以上、何もやらなくても必要となる費用があるわけですね。それと事業を行うために最低限の予算。文化庁とかから資金獲得するにしても、大体補助率2分の1っていうのが現状ですから、事業に必要な自主財源をある程度確保していないと外部資金の獲得ができません。最低限事業費をどれぐらい確保するかというところが、多分一番検討しなきゃいけないところだと思うんですけども、それ以前にかかる費用っていうのは当然あるので、それは指定管理料としてしっかり確保するっていうことを書いていただいた方がいいと思いました。

【山中委員長】

指定管理の仕方も色々出てますけど、その事業収入をどちらに入れるかによっても全然違ってきますし、ちょっとその辺ホールに関しては分からないんですけども、道の駅とかでもいろんなところが全然違った形になっていますし。

【吉森委員】

やっぱり、私は立地が一番問題だと思います。何でかって言うたらね、今、駐車場ないでしょ、ほとんどね。東新町なんかはね、駐車場いっぱいありますが、空いてますよ。だけどね、バラバラにあるから、ホールに遅刻してくる人がいっぱいいる。

例えば福井なんかのホールはね、大きくない1500席ぐらいだと思うんですが、郊外にあって、ホールのために停留所を作ったと。だから福井から乗ってホールに行ける。ホールしかないんだから、その前には約600台の駐車場、本当に田んぼの中にあって、でもまだ足りないよ、もっと駐車場を増やすって言っていましたね。だからそれぐらいやっぱり深刻なんですよ、駐車場っていうのは。

今、徳島でそんな場所ないけど、実際は何か方法を考えないとね。建物建てたって、いくらホールの中を良くしたって、駐車場がなかったらみんな右往左往して、佐古まで置きに行つてね、30分かかる。みんな終わってしまう。

【山中委員長】

最近予約型駐車場とか、そういうプラットフォームできてますからね。ただ、タワーは結局ある時間に集中して、絶対容量オーバーして渋滞するんですよ。容量の一割を超えただけで大渋滞しちゃうので、それだとコントロールするのは無理なんです。であれば、予約をして、事前に何分前にちゃんとホールに入れるような駐車場が、自分は確保されているというふうになれば、ちゃんと時間が計算できて、それなりに成立すると。なので、ちゃんとしたスケジューリングをしてあげるっていうことなんですよね。民間駐車場の業者さんなんかと組めば、何時何分にはあなたは使えます、みたいな形ができるので、なんかそういうのをうまく仕掛けてあげると。本当に深刻になればですね。

【佐野委員】

それを新しいホールの1つ、売りにできるんじゃないかと思ってるんですね。地域と組んで、アプリでも作って、今は若い人みんなそれでできますから、何かポイントあげればいいんじゃないですか。

【山中委員長】

それが嫌だというなら自転車で行くなり、他の駅に車を止めて、徳島駅まで来て、歩いて行くっていうことだって。需要コントロールはむしろ、回しやすい場所になったなと思います。

【事務局】

駐車場につきまして、委員長の方からも予約の話がありましたが、私も県外ですごく混む大都市の中心に行くときは予約して行っています。その方が安心して行けますし、それですべて補うというのではなく、今いただいたアイデアですとか、いろんな方法、どれか1つのアイデアで全部解決するというものでもないと思いますし、駐車場については総合的にいろんな手を打っていく必要があるのかなと。状況見ながら、結果に合わせて打っていくというのはあると思いますし、しっかりやっていきたいなと思ってます。これは来館

者と主催者ともに、不自由がないようにしなければいけないなという認識です。

【吉森委員】

演奏会が終わる頃には何もありませんよ。都会とかだったら夜中まで電車が走っているから、車でわざわざ来なくていいですけど。だからそういうことを考えないとね、徳島でバスで来なさいって言うても、帰りにないんですよ。JRだって全くないんですよ、11時まで待ってないと阿南で止まってしまうんです、最終が、だからね、交通の便利は考えないと。香川県と違うんですよ。

【檜委員】

ちょっと戻りますが、吉本委員がおっしゃった貸館事業におけるサポート体制についてなんですけど、ホールを使ったことがない人のためにも、ホールの使い方などがわからない方のために、そういう人たちが使いやすいシステムとして、サポート体制というのがあったらいいなと。それが機能的な部分だけじゃなくて、制作や広報とかそういうのも含めて、サポートできる。それこそ人材育成として、もちろん上演する人だけじゃなくてそれをサポートするスタッフさんのハード面、機能的な部分と、ソフトとしてホールの表方だったり、制作広報とかのソフト面の人材育成がホールの中にあるといいのかなと。

あと、検証とか評価というところで、今回いらっしゃる皆さんはよくご存じだと思うんですけど、評価することは本当に時間がかかると思うんです。評価って、イベントで興行収入として赤字じゃなくて黒字だから成功だった、とかいうものではなくて、吉森先生がおっしゃっていたように、小さい時に見た歌舞伎が大きくなって何かに繋がって行って、花が開くということもあります。だから評価っていうものに対しては、繊細に扱っていただきたい。単に数字だけで見るできないのが文化の難しいところだと思いますので、その辺りも少し、すぐには結果が出ないというか、なにかそういうふうなものがちょっと欲しいなと。言い訳っていうんじゃなくて、文化はそういうものだと思いますので。

また、伝統芸能がこの中に入っているのが、私はすごく嬉しいです。やっぱり県立として伝統芸能を、阿波踊りだけではなくて、県内各地域の方達も、何かの縁があって来てもらえるような取組、佐野委員さんがおっしゃったような、伝統と英語とかっていう形とか、そこにオリジナルの今あるものを活用して、デジタルとの組み合わせだとか。それが新ホールの使命かと言われると分からないんですが。

【山中委員長】

伝統芸能でどういうイメージをされますか。

【檜委員】

古典芸能だけでなく阿波踊りや人形浄瑠璃を含めて、地域のお祭りでしょうか。そのところに来ると、徳島ってこんなものがあるんだとわかって、そこからその土地まで行ってみようとかにつながるのかなと。何かそういう仕組みになるのかなと思います。

【山中委員長】

地域文化の発信みたいなキーワードかなと思いましたので、どういう活動をしているのかなと。

【佐野委員】

①のところに文言で入れればいいんじゃないですか。なんか新しい文化芸術ばかり聞いてますけど、初めて見る人にとっては、古いものも全部新しい芸術ですから。そういう出会いを提供しないと。

【生駒委員】

施設設備で、音響の設備、機械はなかなか良いのが入ってないんじゃないかなと心配します。民間から借りたりする場合でも、徳島の場合はそんなにいいのがない。私も大塚国際美術館で、片岡愛之助さんとかと歌舞伎を10年ほどやってたんです。カルテットですとほぼ10年間演奏を一緒に呼ばれてやっていたんですけど、マイクで取って出る音が、ものすごく自然なんですよね。そういう音が、郷土文化会館で民間の普通の機械を使ったりすると、全然音が違う。だから新しいホールがちゃんとそういう音響面で、特に生音だけでなく、いろんなミュージカルとかでも、多分、ピンマイクを使うと思うんですけど、それはもう全然違うレベルにならないように、いい音が出るものをぜひ。もう徳島やったら生の音でも素晴らしいホールやけど、マイク使ってもすごいですよ、というものにして欲しいなと思います。

【山中委員長】

やっぱり20年、30年で大分違うんですよ。

【事務局】

そうですね。これから整備するホールとして、ハード面、建物だけでなく設備についても、新しいものがありますし、どこまでのグレードでというのは、実際に設備を検討するときの話と、コストの兼ね合いとなりますが、普通に考えれば、他県の新設のホールで備えるものより落ちたものが入る、というのは考えにくいので、現状からの大幅なグレードアップになるのは確実かなと思います。そこはしっかり考えていきたいです。

【吉森委員】

マイク使用だとね、NHKのコンクール、あれも徳島と松山で使っているマイクが全く違っていただけで、だから徳島でやっても勝てない。それで松山から全部機材を積んで来てと。僕らはどうしようもない、録音はね。ステージで取っているのと、徳島のスタジオで取ったのだと、勝負にならないからかわいそうだった。2番だったけど、あれもちゃんと良いホールで録音していたら1番だったけど、機材ってものすごいやっぱり大事で、コンクールなんて特にね。我々は控室でスピーカーで聞いていたら、何でこんな音の弱いところが代表になっているんだろう、おかしいっていうんで、そうしたら放送用は強いところを弱くして、弱いところを強くして、みんな同じ調整にしていると。審査員がおかし

いと言われる、なんであんなところを一番にしたんだ、何であそこが落ちるんだと。だからね、やっぱり機材というのは、知らなかったらそんなん平気で、あかんってことまで気がつかない。

【山中委員長】

24ページからの施設の機能のところ、今おっしゃっているような音響とか録音とか映像とか、そういうホールを作りたいというような文言があってもいいのかなと。

【事務局】

舞台設備につきましては、今、項目としてはほとんど入ってないのですけれども、最終案では、その付帯設備の考え方についても、内容を充実させていただき予定としております。今のご意見を受けまして、しっかりそこを書き込んでいきたいと思っております。

【山中委員長】

だからその舞台というイメージと違うような気がするんですね。聞く側の環境みたいな話なんで、少し項目立ても別に立てていただいて、書き出していただいた方がいいかなと思われました。

【佐野委員】

今のこの案だと多目的スタジオでそういったことができます。大ホールだけじゃない。

【吉本委員】

最後のページにある整備スケジュール、これは次回に出てくるということでしょうか。いろいろクリアしなきゃいけないものもあると思うんですけども、1日も早くできたらいいなというのが、県民の皆さんのご希望だと思います。方針が変わってからまだあまり時間が経っていないにも関わらず、早速、こういう新しい会議を作って意見交換をする場が設けられたのは、佐藤部長以下、ご担当の皆さんのご努力の賜物だということは理解しているんですけど、開館までの整備スケジュールも、次回に何かを示していただければかなと思って、ちょっと質問させていただきたいんですが。

【事務局】

先ほども音響ですとか、映像のご意見もいただきまして、ハード面の項目も3回目に向けて密度を上げていきたいなと思っております。いただいた意見をどこまでこのプランに落とし込んでいけるのか、新ホールにどこまで求めていけるかというところを踏まえて、コストやスケジュールを具体化していきます。早期整備は最優先ではありますが、県民の皆様にも少しでも安心していただけるような記載ができればと思っております。

【山中委員長】

多分、スケジュールは整備手法に絡んでくるので、手法ごとにスケジュールを組んでみるってことですかね。整備手法の可能性調査みたいなのは、次年度以降ということになるん

ですかね、もしやるとしたら。ここに並んでる手法だと、いわゆるVFMを計算する話があると思うので。

【事務局】

整備手法はこれもスケジュールと絡んで、大きく絡んでくるものと思います。ハードの面だけじゃなくてソフト、管理運営の考え方がどうなっていくかによっても、整備手法とスケジュールに影響してくると思いますので、このプランを固めていきながら、あまり時間はありませんが、詰めていきたいと思っています。実際、動き出すときには、必要であれば、限られた時間でありませけど、しっかりとサウンディング等も行いながら、確実性を上げていきたいなど。

【山中委員長】

事業者を選択するときの可能性調査っていうのは、多分必要だと思うんですけども、そのタイミングをどうされるのかなと思ひまして。

【事務局】

やり方によっては県の一定のルールもありますし、その中で可能性調査はPFIであれば、大体1年ぐらいかかるのかなと思います。あとは求められるスピード感とにらみながらの判断になるのかなと思います。

【山中委員長】

次回に向けて、他にこの辺を検討しておいて欲しいというところがあれば。

【事務局】

先ほど基本目標に対するご意見いただいたところですが、14ページの中ほど、枠で囲んだ一行のコピーのようなもの、「文化芸術の振興、創造発信およびにぎわい創出の拠点」というのは、事務局のたたき台として並べている言葉です。今後このプランを高めていく上で、県民の皆さんにもこのホールがどういう方向を向いていくのかを、わかりやすくするための一行なんですけど、事務局としても、いただいた意見を一行にしっかり込めたものとして考えていくのですが、今日に限らず、もうちょっと中身はともかく行政っぽいのはやめて、もっとわかりやすいようにしてくれとか、どんどんご意見いただけたらありがたいなどと思っています。

【山中委員長】

先ほどから駐車場の話が出ていますので、そのデータとして、周辺500mぐらいでどれぐらいの台数があるかを表で示したらどうですかね。結構、台数あると思うんですけど。

【事務局】

周辺500mで約2500台、公共民間合わせて、それぐらいあると確認しております。ただ、お勤めの方も多いエリアですので、その通勤にかなり占められていたり、定期契約

をされている方もいます。単純比較はできませんが、旧文化センター跡地の場合は、周辺500mで、1000台強という形でした。

【山中委員長】

駅前が外れちゃうんですね。そこで簡単な交通計画的なものは作れると思いますので、やって来る人たちを交通手段別で出して、どれぐらいの駐車需要が生じるか。そのうち、ホールとしては300台ぐらいの予約スペースを確保しておけば結構いけるんじゃないかと。実際に打ち出す時にはですね、そういう計算もされた方がいいかと思います。

では、2回目の意見交換会はこれで終了することとします。事務局に議事進行をお返しします。

【事務局】

以上で、本日の意見交換会を終わります。皆様、ありがとうございました。

以上